事例 3

命を守る助け合い

いつもの取り組みでもしもに備える

日本は地震や台風などによる大雨・洪水、土砂災害といった自然災害が頻発する国です。丹後地方においても、昭和2年の北丹後地震や平成16年の台風23号、平成30年の7月豪雨など、大きな災害を経験してきました。今年で30年が経過した阪神淡路大震災（平成7年）や東日本大震災（平成23年）、令和6年元日の能登半島地震などの災害では、公的な救助が届く前に、地域住民同士の助け合いが命を救った事例が数多く報告されています。

与謝野町では、毎年、地震や風水害を想定した防災訓練、防災への意識を高めてもらう防災フェアを実施。また、地域では自治会や自主防災組織による独自訓練や防災マップの作成、水出し訓練など、住民同士で防災意識を共有する取り組みが行われています。このような防災の取り組みは、日ごろからの自治会や地域の活動が近所・隣組、地区単位での情報共有の場となり、顔が見え助け合う体制づくりにつながっています。

北丹後地震の発生から今年で98年。「助け合いが命を守る」という意識を持ち、いつもの取り組みがもしもの備えになる「自助・共助」の力を高めていきましょう。

消火器を使った防災訓練（写真：加悦奥区提供）